



2023 日本自動車殿堂 歴史遺産車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected,
registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

パジェロ

三菱 パジェロ

MITSUBISHI PAJERO

MMC



1982年に発売された三菱パジェロは国内ではRV（レクリエーションル・ビークル）ブームの火付け役となり、海外では170ヵ国以上に輸出された。

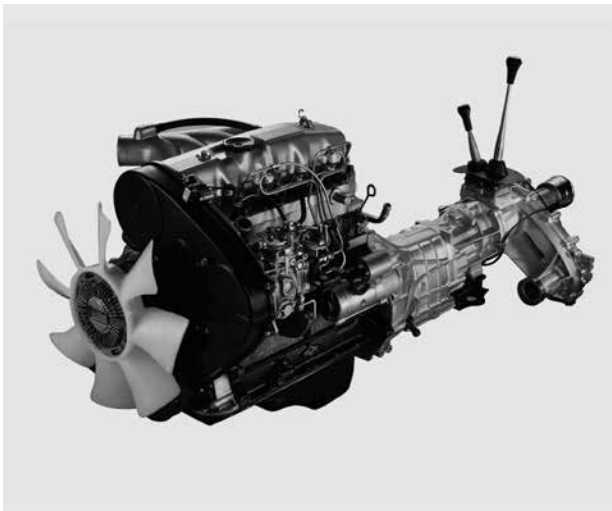
三菱パジェロメタルトップ

2300ディーゼルトーボ(1982年)主要諸元

全長	3930mm	型式	N-L043GV(NTX)
全幅	1680mm	エンジン型式	4D55(T)型
全高	1865mm	駆動方式	4WD
ホイールベース	2350mm	エンジン	直列4気筒OHCターボ
トレッド(前)	1400mm	ボア×ストローク	91.1×90.0mm
(後)	1375mm	総排気量	2346cc
車両重量	1450kg	圧縮比	21.0
乗車定員	5人	最高出力	95ps/4200rpm
最高速度	—km/h	最大トルク	18.5kg-m/3000rpm
最小回転半径	5.2m	変速機	5段、2段副変速機付
タイヤサイズ	H78-15-4	価 格	189万円



パジェロは国際ラリーで活躍、パリ・ダカールラリーでは通算12回の総合優勝に輝いた。



1982年の発売当初のパジェロに搭載された、4D55型2346ccアストロン80副変速機付ディーゼルエンジン。



パジェロの乗用者然とした運転席まわり。

■乗用車ユースの4WDとして開発

三菱自動車工業の前身のひとつ、新日本三菱重工業はオフロードタイプの四輪駆動車(以下4WD車)としてジープを1953年からライセンス生産・販売し、そのオフロード性能の高さから一定の人気を得ていた。しかし1970年代に入ると、4WD車に対するニーズは、業務用の枠を超えて多用途に拡大し始め、性能面でもオフロードプラスアルファが求められるようになった。

またジープはそのライセンス契約上、輸出することが原則でできなかったため、三菱自動車工業ではジープと異なる新しいコンセプトの4WD車の開発機運が持ち上がった。1979年の東京モーターショーにコンセプトカーのパジェロIIを参考出品したところ、好評であったことから開発を本格化させることになった。開発構想では、①乗用車ユーザーにも抵抗なく受け入れられるスタイリッシュで機能的なデザイン、②悪路走破性と信頼性を備えた従来にない多目的4WD車、その一方で、③乗用車感覚あふれる多目的4WD車として誰もが使いこなせる乗用車並みの快適性、操作性、をねらいとした。

■パリ・ダカールラリーで活躍、 世界170ヵ国以上に輸出

開発にあたり、日本だけでなく世界市場にも通用する多目的4WD車をめざし、試作車の走行テストをサウジアラビアで実施するなど、入念な熟成を行なったうえで、1982年5月、初代パジェロが発売された。メタルトップとキャンパストップの2種類のボディの4型式7車種が投入され、その後毎年のようにバリエーションを追加し、ユーザー層を拡大していった。発売翌年の1983年3月には乗用登録車を、同年7月にはロングボディ車を、1985年にはオートマチック車を追加した。

1988年にはV型6気筒ガソリンエンジン搭載車を追加、ディーゼルトーボエンジンにインタークーラーを装着し、また足まわりもリヤサスペンションをリーフ式から3リンク式コイルに変更するなど、大幅な改良を施した。オフロード性能と乗用車並みの扱いやすさの両立した、乗用車感覚あふれる多目的車というパジェロの狙いは、多くのユーザーに受け入れられ、新しいジャンルを確立し、販売台数と生産台数が急激に増大した。月間平均販売台数は発売年の1982年の732台から、1989年には2740台に拡大、その後の日本市場のRV(レクリエーション・ビークル)ブームの火付け役となった。

輸出もアジア、北米、中南米、欧州、中近東・アフリカ、オセアニアなど全世界170ヵ国以上に達した。この結果、生産累計台数は1989年に50万台を突破し、三菱自動車の屋台骨を支えた。

またパジェロは国際ラリーでも活躍した。発売翌年にはパリ・ダカールラリーに出場し、市販車無改造クラスで優勝を獲得した。そして1985年には初の総合優勝を達成。以降も12回にわたって総合優勝に輝き、同社の技術力を証明すると併せて、世界シェアの拡大に大きな役割を果たしたのである。

パジェロは2021年に生産終了(国内販売は2019年に終了)するまで、4代にわたり全世界で活用され、累計生産台数は325万台に達した。高いオフロード性能に加え、乗用車感覚で乗れる4WD車という新しいジャンルを創造し、国際ラリーで活躍、新たな4WD車市場の創出と拡大に貢献するとともに、世界の市場を切り拓いた初代パジェロは、歴史遺産車にふさわしい。

(日本自動車殿堂 研究・選考会議)